

がん化学療法指示書

登録番号 256

作成日 2020/8/12

レジメン名	nal-IRI+レボホリナート+5-FU療法
診療科・対象疾患	(外)がん化学療法後に増悪した治癒切除不能な膵癌
投与間隔	2週間
投与サイクル数	PDになるまで

Chemo Navi

薬剤名	成分名	投与量	投与日
オニバイド	イリノテカン リボソーム製剤	70mg/m ² (※1の場合50mg/m ²)	day1
フルオロウラシル(持続点滴)	フルオロウラシル	2400mg/m ²	day1~3

治療内容	順	滴下剤	抗腫	薬剤(成分名)	投与量	時間	投与方法	投与スケジュール								
								day1	day2	day3	day14		
注射	Rp1			生理食塩液	100mL	任意	ルート確保・フラッシュ用	●								
	Rp2			パロノセトロン(0.75mg)	1袋	15分	点滴静注メイン	●								
				デキサート(6.6mg)	1瓶											
				デキサート(1.65mg)	2瓶											
	Rp3			生理食塩液	500mL	90分	点滴静注メイン	●								
				癌 オニバイド(イリノテカン)	70mg/m ² ※1											
				総量500mLにする												
				UGT1A1遺伝子変異のある患者では開始用量を50mg/m ² とする。												
	Rp4			生理食塩液	50mL	全開	フラッシュ用	●								
	Rp5			5%ブドウ糖液	250mL	120分	点滴静注メイン	●								
				レボホリナート	200mg/m ²											
	Rp6			生理食塩液	200mL	46時間	持続点滴	●	●	●						
				ヘパリンNa注	1mL											
				癌 フルオロウラシル	2400mg/m ²											
			総量を140mLにする													
その他必要薬剤																
総投与時間	day1:3時間50分(フルオロウラシルの持続点滴を除く) day1~3:46時間(フルオロウラシルの持続点滴のみ)															
血管外漏出リスク	オニバイド(イリノテカンリボソーム製剤):炎症性抗がん剤 フルオロウラシル:炎症性抗がん剤															
投与時の注意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・オニバイド(イリノテカンリボソーム製剤)はフィルター付ルートは使用不可 ※1:オニバイド(イリノテカンリボソーム製剤)はUGT1A1*6もしくはUGT1A1*28のホモ接合体を有する患者、またはUGT1A1*6及びUGT1A1*28の複合ヘテロ接合体を有する患者へ投与する場合、開始用量を50mg/m²とする。忍容性が良好な場合は、2サイクル目以降の投与を70mg/m²とすることを考慮する。 															
備考欄	<ul style="list-style-type: none"> ・併用禁忌薬剤:レリアタツ(アタザナビル)→骨髄機能抑制、下痢等の副作用増強の恐れがある。 ・UGT1A1遺伝子に変異のある患者では副作用発現の可能性が高く、開始用量が異なるため検査実施のうえ投与すること。(投与時の注意事項参照) ・オニバイド(イリノテカン リボソーム製剤)を従来のイリノテカンの代替として投与しないこと。 															